

# 青森県におけるりんご産業から 地域特性を活かしたビジネスモデルを学ぶ

担当教員名 金藤 正直

## 1 コースの概要

日 程	2014年8月25日～28日
場 所	青森県青森市、黒石市、弘前市、板柳町
参加人数	16名

## 2 コースの目的

りんご生産量が日本一である青森県には、りんごの生産、加工、流通、販売、研究機関等の組織が数多く存在しています。これらの組織は、個別に活動しているだけではなく、組織間で連携しながら、製品・商品の開発や販路開拓・拡大といった「事業（ビジネス）」を行っています。このコースでは、①青森県におけるりんご産業の歴史、②りんご産業を支える上記組織の役割、③組織間での連携事業の特長、④りんご産業の問題とそれに対する解決策、という4つの学習を通じて、地域特性を活かした「事業（ビジネス）」の現状と課題を明らかにし、また、そこから新たなビジネスモデルを提示していくことを目的としました。

## 3 事前学習

事前学習では、青森県農林水産部りんご果樹課が刊行している冊子『平成25年度版 青森りんご』と、同課が作成したDVD『青森りんご物語ーりんごのキモチー』を用いて、県内のりんご産業の現状、産業を支える組織の紹介、年間のりんご栽培の方法等について学習しました。その後、調査チームを6つ（2人/チーム）作り、各チームで、上述の学習目的①から④に関連した県庁作成の報告書や経営学の著書等を利用しながら、自主学習を実施していきました。

## 4 行程

1日目：現地（青森駅）集合⇒青森県農林水産部りんご果樹課⇒青森県産業技術センターりんご研究所

1日目は、青森駅に集合し、そこから最初の訪問先である青森県農林水産部りんご果樹課に行きました。ここでは、配布資料を使用しながら、同課職員の方による現在実施中あるいは将来実施予定である県内のりんご産業の支援策（政策やそれに基づく事業）に関する講義を受講しました。

りんご果樹課での講義後、次の訪問先である青森県産業技術センターりんご研究所に移動しました。ここでは、最初に、所内のりんご史料館の中に展示されているパネル・模型と映像等を利用しながら、研究所の概要、県内のりんご産業の歴史、りんごの品種、機能、栽培方法等に関する講義を受講しました。次に、所内の栽培部の農園を見学し、講義で説明されたりんごの品種、栽培方法、病害虫による被害果等を直接目で見て学習しました。

2日目：弘果弘前中央青果（株）⇒弘前市りんご公園

2日目は、午前中に、青森りんごの流通拠点である弘果弘前中央青果（株）に行きました。ここでは、まず、場内を見学し、青森県を代表する総合卸売市場としての雰囲気、りんごの競売とその後のりんごの取り扱い方、りんごの選果・選別システムや保管庫（冷蔵庫）等を見学しました。場内の見学後は、会議室において、会社の概要および市内あるいは県内の役割やその取組み等に関する講義を受講しました。

弘果弘前中央青果（株）での見学・講義後、次の訪問先である弘前市りんご公園に移動し、到着後、園内を見学しました。見学では、市職員の方に、園内の概要だけではなく、りんごの品種、作業、保管庫（冷蔵庫）、シードル工場等を説明してもらいました。午後からは、園内にあるりんごの家で、野呂先生（りんご公園専任指導員）による青森りんごの生産や産業の課題等に関する講義を受講しました。講義後、農園でのりんごもぎとり収穫体験やシードル工場でのシードルの試飲を行い、りんごのもぎ方、もぎ取るりんごの選び方、シードルの味、色、ビン・ラベルのデザイン等を学習しました。



講義の様子



農園の見学



りんごの競売



りんごもぎとり体験



草木染の様子



クッキー作りの様子

### 3日目：板柳町ふるさとセンター（りんごワーク研究所）

3日目は、町レベルでりんごを活用した地域振興事業を展開している板柳町を訪問しました。午前中は、りんごワーク研究所の葛西所長によるふるさとセンターの概要やりんごワーク研究所の立ち上げから現在に至るエピソードを含めた町の取組みに関する講義を受講しました。講義後、同センター内の施設（ジュース等の加工場やりんごの貯蔵施設等）や町のりんごに関する展示品等を見学しました。午後からは、同センター内にある工芸館で創作体験（草木染、クッキー作り、陶芸、林寿）を4グループに分かれて行いました。

### 4日目：調査報告会（弘前大学人文学部）⇒現地（弘前駅）解散

4日目は、各チームが、事前学習、自主学習、そして、3日目までの訪問先での講義、見学、体験に基づいて調査結果を報告するフィールドスタディ調査報告会を弘前大学で開催しました。ここでは、各チームがこれまでの取組みから明らかにしたりんご産業の問題点を、経済政策、流通・物流、マーケティング、商品開発、教育（人材育成）等のさまざまな視点から解決していく方法を報告し、また、その方法から考えられるりんご産業の新たなビジネスモデルについても提案しました。調査報告会は夕方まで行われ、その後、弘前市内で解散しました。



報告会終了後の集合写真

## 5 事後学習

事後学習では、各チームで4日目に開催した調査報告会での報告資料やその内容を再度整理するとともに、整理した内容をレポートにまとめ、提出してもらいました。なお、提出された報告資料やレポートは、各訪問先にも送り、その内容を評価してもらいました。

## 6 雑感

今年度のフィールドスタディでは、各訪問先での講義、見学、体験学習を通じて、りんご産業を支援する自治体（青森県、弘前市、板柳町）やその関連組織（弘前市りんご公園やりんごワーク研究所）、りんご農家のための研究機関（青森県産業技術センターりんご研究所）、りんごの流通市場（弘果弘前中央青果（株））、といった組織としての役割や重要性を学習でき、また、こうした学習に基づいて、りんごを活用しながら新たな地域振興事業を展開していく方法論も提案できたことから、「1. コースの目的」に示された目的を十分に達成することができました。

## 学生の声

### まさに「五感で感じる学び」を体験

私がこのフィールドスタディ（FS）に参加するにあたって、一番知りたかったことは「普段身近にあるモノの流通の仕組み」でした。そのため、「青森県のりんご産業」という非常にポピュラーな作物を取り扱っている産業や地域特性を活かしたビジネスモデルに興味を持ちました。

このFSでは、りんご産業に関わる組織を5か所訪ねました。青森県庁りんご果樹課、青森県産業技術センターりんご研究所、板柳町ふるさとセンターでは、講義や見学を通じて、りんごの多様性や進化の歴史、県内や町内でりんごがどのような意味を持つ作物であるのかを知ることができました。また、弘果弘前中央青果(株)では、直に「りんごの競り」が見学できました。さらに、私がこのFSで印象深かったのは、弘前市りんご公園でのりんごもぎ取り体験です。

このように、私たちは、自らの五感を使った、「りんご」をテーマとしたFSを通じて、県内のさまざまな組織がお互いに役割を担うことにより、私たちの食卓にりんごが並び、という「りんごの流通の仕組み」や「りんご産業のビジネスモデル」を学ぶことができたと思います。また、多くの人々に出会い、いろいろなお話を伺う機会を得ることができました。

現地では、多くの方が、それぞれの想いと信念を持ってりんご産業に関わっているのので、思っていた以上に多くの情報が得られ、濃密な時間を過ごすことができました。このFSで経験した「知りたいことは自ら進み体験し会得すること」、「問題を自ら提起し考察し結論を出すこと」をこれからの学生生活で活かしていこうと思います。



2年 庵崎 恒平